

◇第11回 函館市新型コロナウイルス感染症対策本部会議

- ・開催日時 令和3年1月15日（金）9：00～9：30
- ・開催場所 市役所8階大会議室
- ・内 容 1 開会
2 函館市の感染状況について
3 北海道における集中対策機関の延長について
4 その他
5 閉会
- ・出席者 本部長 市長
副本部長 平井副市長，谷口副市長
本部員 33名

・議事要旨

（大泉 保健福祉部長）

先日、緊急事態宣言が1都3県に出た時点で、函館市においても改めて対策本部を設置した。

○函館市の感染状況について

函館市の感染状況について、国のステージ3，ステージ4の基準と比較した表の説明。

・医療提供体制の負荷

確保病床の使用率，病床全体…21.1%＝ステージ3の基準を下回る。

うち重症者用病床…36.4%＝ステージ3の基準に該当。

療養者数…1月14日現在46人（人口10万人あたり18.26人）＝ステージ3の基準に該当。

・監視体制

検査陽性率…（1月8日～14日までの一週間）9.7%＝ステージ3の基準を下回る。

・感染状況

1週間あたりの新規感染者数…60人（人口10万人あたり23.82人）＝ステージ3の基準を上回り，ステージ4の基準に近づいている。

直近1週間と先週1週間との比較…増加。

感染経路不明割合…35%＝ステージ3の基準を下回る。

ステージ4の基準に近づいている指標もあり，非常に緊迫した状況となっている。直近の感染状況については，去年の10月までは累計で9人。11月は71人，12月は89人，1月13日の累計で84人。本日は，20人近くを発表を予定しているので，さらに増える。

○北海道の集中対策期間の延長について

第32回北海道新型コロナウイルス感染症対策本部会議資料の説明。

資料3・集中対策期間の延長（令和3年2月15日月曜日まで延長）に対する道の施策について，1ページは協力要請のポイントについて。2ページは「特措法第24条第9項に基づく協力要請の実施」について。概ね変更ないが，札幌市と道民全体について今回は一緒に記

載されている。「感染リスクを回避する行動の徹底」に「できる限り同居していない方との飲食は控える」が追加。「営業時間短縮等の要請に呼応した行動変容の要請」に一部区域においては、「飲食店等を午後10時から翌午前5時まで利用しない」が追加。「事業者の皆様への要請」に一部区域における「飲食店等に対し、営業時間の短縮」が再要請されている。3ページは「感染拡大防止対策のさらなる強化」に「札幌市以外の全道の繁華街における感染拡大防止の取組の推進」として、「振興局における勉強会の開催」が追加。これについては渡島総合振興局と連携しながら検討する。4ページは札幌市の事業者への要請、5ページは「集団感染への迅速な対応」で特に変更はない。

次に資料4・「緊急事態宣言に対する道の考え方」について、道内の新規感染者数が国のステージ4（10万人あたり1週間で25人）を超えた場合には、国に対して緊急事態宣言に関する速やかな検討について要請する。

次に「基本的対処方針の主な対策」について、北海道に緊急事態宣言が発令された場合には「外出の自粛」、「施設の使用制限等」、「職場への出勤等」、「学校等の取扱い」この4つが中心となる。

○函館の社会福祉施設での集団発生（クラスター）の発生について

本日、社会福祉施設の発表があり、陽性者が現在14名、職員9名、入所者5名。経過については、最初に1月12日に保健所の検査で職員の陽性が判明。13日にもう1名の職員の陽性が判明。14日に施設内で集団検査を実施。そのうち11名の陽性が判明した。施設・保健所と検討し、対策を進めている。当面は感染管理認定看護師が入り、施設のゾーニングを確認する。速やかに全員分のPCR検査を実施する。また関係機関間の連携も徹底する。特筆すべき点として、現状の医療機関や入所者の状況などから陽性の入所者については全員入院または宿泊療養は困難と判断し、施設内をゾーニングしながら、今現在1名は入院しているが、残る入所者4名の陽性者については施設内において隔離をし、施設内療養の方向で施設と調整中。感染拡大の防止を徹底する。

各部局長においては、非常に緊迫した状況となっており、これまでも対策を徹底していると思うが、引き続きご協力をお願いしたい。

（工藤 市長）

実質もうステージ3、1週間あたりの新規感染者数でいうと4に近づいており、非常に厳しい。このままでいくと毎日感染者が増加する。

初の福祉施設クラスター、北斗市でも昨日、福祉施設でクラスターが発生して、非常に緊迫感を強めている。知事や有識者、保健所長の会見でも、年末年始、もともと11月から増えているが札幌あるいは首都圏からの持ち込みと報道されており、今は年末年始帰省している人に関する感染というのが函館の場合非常に多い。今更できる限り同居していない家族との飲食を控えると言われてももう遅い。年末年始の感染者が落ち着いたとしても二次感染、三次感染の心配もある。成人の日の三連休で新成人が移動した影響も心配である。今月中は予断を許さない状況であり、数値的には今ステージ3から4に近づいている。北海道の新規感染者が10万人あたり25人で緊急事態宣言を要請するが、函館も新規感染者数で

捉えるとその段階に近づく。各部局において改めてできることを徹底していただきたい。最近ではホテル療養が多いので重症者数が比較的抑えられているが、街中や家庭内で高齢の人に拡がっていくと重症者が増えて病院が疲労することになりかねないので、抑え込みたい。決して札幌は他人事でなく函館の状況が様変わりしているということを認識していただきたい。病院や福祉施設、あるいは学校、他の施設を所管する部署は再度、感染対策を徹底してもらいたい。さらに、最近では飲食店、いわゆる飲み屋で感染している。持ち込まれていると思うが、じわじわ拡がる可能性があるため、11月に本町と大門で行った感染防止の対策を再度行う。今の時点ではなく、続くようであればこれから。いきなり時短要請するつもりはないが、注意喚起は市としてやっていかなければならない。渡島振興局とも協力しながらやっていただきたい。「札幌市以外の全道の繁華街における感染拡大防止の取組の推進」にある勉強会に出てくるようなことは注意して真面目に取り組んでいるが、問題は真面目にやってないところをどうするか、そこはやっていくしかない、やれるところをしていただきたい。

(氏家 病院局長)

大変な状況であり、函館は医療機関がたくさんあると思われているが、コロナ対応の病院は少ない。函館は道南で唯一救命救急センターがあり、地域の重症の救急患者の対応も行うため、かなり緊迫している。マスコミによれば日本の医療体制は民間が多く、コロナ対応してもらえない、特に函館はそうなっている。幸い今のところ重症患者が少なく、保健所・医師会との連携のもとに福祉施設や介護施設の陽性者については軽症また中等症の1（酸素投与は必要なく経過観察）の場合、できるだけ今いる施設で介護、ゾーニングや感染対策については協力する。ただし、重症患者はもちろん入院する。今後の状況によってはコロナ以外の一次・二次救急を他にお願いしてコロナ対応にあたるということを考えている。

(平井 副市長)

札幌や首都圏からの学生もしくは単身者による感染が推測される。職員の中にも息子が実は正月帰ってきた等、あると思う。絶対に感染させない、ということを各々が自覚するのが今一番大事なことだと思う。万が一思い当たるふしがあり、調子悪いなら迷わず休む、人との接触を避ける。また食事など気をつけていると思うが、アルコールがまわり自制がきかなくなる、声が大きくなる、家庭内でもそういうことがあるので、市役所から拡げることがないように職員ひとりひとりにきめ細かい対応をしていただきたい。

(工藤 市長)

去年宅飲みで、年明けも首都圏から帰って来た子どもから感染した例があり、十分注意をしていただきたい。帰ってくるのも出かけるのも慎重にやってほしい。経路不明が増えてきているが、例えば函館の親が陽性で帰省していた子どもから感染したと思われるが、子どもは時間が経過しておりウイルス量が減って陰性となり経路不明、完全に経路不明よりもそういう推測ができるケースがある。学校もクラスターが出ているのできちんと対応してほしい。

新たな段階に入ってきていることを認識して危機感をもって各自、対応していただきたい。